

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名 いわき生野学園 キッズ広場 とけいワニ

公表日：令和7年 4月 28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		3つのクラスに分かれると共に、生活のできる部屋・運動のできる部屋とあり、活動しやすくなっています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		体制に余裕がある時には他クラスの応援に行ったりしています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		スケジュール・タイマー・パーテーション等、視覚的に伝えることや、環境を整えお子さまが見通しを持って過ごせるようにしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日掃除を行い夕方にはおもちゃの消毒を行っています。また危険な物はお子様の手が届かない場所に置くようにし、不具合箇所はその都度修繕しています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養室やパーテーションで部屋を区切り、落ち着いて過ごせる環境を整えています。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務や支援を振り返るとともに共有し、次につなげていくよう毎日ミーティングを行い、参加できなかった職員も確認できるよう記録を回覧しています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者参加の行事におきましては、毎回感想を記入していただき、次回につなげています。保護者評価についても職員全員で振り返りをおこないました。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングにて、全員が何か話せるようにし、全体で相談できるよう心掛けています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	年間を通じてボランティアや実習生を多く受け入れ、開かれた施設運営を心掛けています。	第三者による外部評価については、まだ実施の予定はありませんが、今後必要に応じて実施を検討していきたいと思えます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修の参加及びいわき生野学園全体として外部講師を招き、研修を実施しています。	引き続き、基本的な研修の他、専門的な研修も積極的に受講していきたいと思えます。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに掲載し、誰でも確認していただけるようにしています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的に保護者と共にアセスメントの見直しを行い、保護者の意見とこどもの成長・発達に合わせて支援計画を作成しています。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者含む全職員で、支援計画(案)について色々な視点で意見を言い合える会議を開催しています。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援記録の様式の見直しを行い、より支援計画が意識出来るようになってきています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		入園前の「聞き取り」及び、共通化されたアセスメントツールを使用し評価しています。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		お子さんひとり一人にあった支援について、職員全体で話し合い、具体的支援を設定しています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各クラスで話し合い、また全体ミーティングでも話し合っています。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		月間プログラムを職員間で話し合っペーパー化し、新しい活動や個々に応じた活動を考え、偏らないよう見える化しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援が行われているか。	○		集中しにくい場合、個別で行うことや落ち着いて過ごせるよう小集団で過ごす時間も作っています。また、活動の内容に応じて、個別、グループ、集団で取り組んでいます。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝職員間で、使用する部屋や遊具の確認を行うと共に、職員の動きの確認を行っています。また、児童登園後には連絡ノートを確認し、特記事項につきましては情報を共有しています。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了時には毎日ミーティングを実施し、情報共有及び一日の振り返りを行っています。送迎等で不在だった職員については、記録を確認できるようにしています。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日お子様たちの様子や支援内容を記録すると共に、振り返りや支援の方向性を評価し、次月につなげています。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		支援計画に沿って支援し、職員同士で話し合う中で、難しい場合は支援の方法を見直す場合もあります。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		日々支援している担任や児発管等が参加しています。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		入園前に各区の子育て支援室の担当者と連絡調整を図り、入園後も情報交換を行っています。また、入園には至らなかったケースについても、情報共有を行い連携を取っています。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて、卒園前に移行先の職員に来園していただき、引継ぎを行っています。来園が難しい場合には、引き継ぎ書を作成し送付しています。また保護者と一緒にサポートブックを作っています。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○				
		(28～30は、センターのみ回答)					
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。		○		児発センター間での連携はとれているが、地域の児発事業所との連携には至っていません。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		令和6年度より、外部の療育機関経験者に定期的に来ていただき、助言を受け日々の支援に活かすことができています。	引き続き、外部研修にも積極的に参加し、知識を深めていきたいと思えます。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	△		いわき生野学園として相談支援事業所が参加し、情報を共有しています。		
		(31は、事業所のみ回答)					
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		学園全体で夏祭りや学園祭を実施し、地域の子どもたちと交流する機会を設けています。また、地域の保育園と合同で芋ほりを企画しています。	芋ほり以外でも保育園と交流ができるよう、一緒に考えていきたいと思えます。		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の連絡ノートや電話、そして送迎時に活動の状況を伝え、保護者との情報の共有に努めています。また、クラス交流会（参観）ではお子さまの様子を見ていただき、一緒に振り返る時間を設定しています。			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△		クラス交流会（参観）を企画し、その中で座談会を行い、一緒に話せる場を設定しています。	ご家族向けの研修までは至っていないので、また企画実施していきたいと思えます。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入園前の面談で各種書類の説明を行い、また分かりやすい入園のしおりも作成してお伝えしています。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画評価時において、保護者の意見や意向を確認する機会を設けています。		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて、電話及び面談等で相談に応じています。また、参観時には保護者同士で話し合う機会を設けています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	△			保護者やきょうだいが参加できる行事は実施できていますが、まだまだ少ないように思いますので、また企画していきたいと思います。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の園便りに、前月の活動の様子（写真）をお伝えしています。また、そのお便りをホームページにも掲載し、遠方の祖父母の皆さんも閲覧できるようにしています	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報については、鍵付きキャビネットにて管理しています。また、園便り等の写真等を使用する場合は、毎回保護者の同意を得てから使用しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		日本語が難しい保護者の方には、翻訳アプリを使用し、お伝えしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		児童発達支援センターとしての独自の行事はありませんが、いわき生野学園として夏祭りや学園祭など、地域住民が自由に参加していただける行事を企画しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月、水害・震災・火事・不審者対応などの各種訓練を行っています。また、年に1回消防の方に来ていただき、助言いただいています。	感染症対応訓練については、備品の準備はできているが、実地訓練ができていないので、取り組んでいきたいと思っています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入園前にアセス表及び健康調査票にて確認しています。また、服薬の際には保護者の皆様が記入された投薬票をもとに行っています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在対象のお子さんはませんが、検査結果等を確認し栄養士・調理員の管理のもと給食を提供しています。また配慮食が必要な場合は、必要に応じて、栄養士と保護者との面談も行っています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		散歩に出る時も、事前にルートを確認を行っています。また日々の訓練の様子を、毎月園便りにてお知らせしています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事案があった場合はミーティングにおいて全職員で共有し、その記録は保管し常に確認することができます。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		いわき生野学園での全職員を対象として研修を行っており、且つ、月1回セルフチェックを行い意識できるようにしています	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束は行っていませんが、お子様の行動を制限するかもしれない事項（扉の施錠・シートベルト等）においては、支援計画に記載し、保護者の皆様に説明及び同意を得ています。		